

## 令和3年度第1回碧南市子ども・子育て会議 会議録

### 1 日時

令和4年2月28日（月）午後2時～午後3時15分まで

### 2 場所

碧南市役所 議員大会議室

### 3 出席者及び欠席者

- (1) 出席者 鈴木政枝、河原厚司、水野裕子、板倉尚子、立花明德、山田直美、  
青木智子、鈴木将大、鈴木忠義、久葉幸子、栗並えみ、鈴木理絵、
- (2) 欠席者 杉浦龍一、竹内陽子、長田千月、岡本衛彦、戸間将、杉浦賢二、鈴木勉
- (3) 事務局職員 福祉こども部長 杉浦秀司、こども課長 中川知之、  
指導保育士 久野貴美代、指導主事 伊藤寛美、  
幼保係長 磯貝浩、育成支援係主事 森田裕希子、  
福祉課発達支援係課長補佐鈴木信恵、  
健康課母子保健係長 羽佐田美和子

### 4 傍聴者 1人

### 5 議題

- (1) 令和3年度碧南市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
- (2) 令和4年度の保育園・こども園・幼稚園・児童クラブの申し込み状況について
- (3) その他

### 6 議事録

- (1) あいさつ（鈴木会長）
- (2) 議題

ア 令和3年度碧南市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について  
事務局が資料に基づき説明

A委員：コロナで利用者が減った子育て支援センターやショートステイ・トワイライトステイについて、利用者がいない状況であっても提供体制を維持しているのはとても安心したのでコロナが終わった後も万が一に備えて引き続き提供体制の整備を続けてもらいたいと思う。子育て支援センターは、感染対策で予約をしなければならないのは致し方ない部分だと思

うが、予約をしてからしか利用ができないのは保護者にとってハードルが上がってしまうので、その部分に対する支援やアウトリーチ型な支援を検討していただきたい。また、新たに1ヶ所保育園が認可されることになっているが、乳児保育の要件緩和で利用者数が増える懸念があったが、その対応も的確にやっていただいてありがたい。児童クラブは、年によって利用者の増減があることは伺っているが、今年度も利用者が結構多いと感じるので、今後の対応について伺いたい。利用者に対しての支援員の数や面積基準を満たしているかの現状について伺いたい。

事務局：子育て支援センターについて、コロナ禍ということもあるので相談業務などはオンラインで行うなど、どのような手法があるか検討していきたい。各保育園の子育て支援センターについては、親子と保育園との連携を行っていきたいので、現状のままでと考えている。児童クラブについては、近年は中央児童クラブに増設した経緯があるが、年によってやはり利用者の波があり、今年度では鷺塚児童クラブの利用が若干増加している。今後は小学校と連携をとり特別教室や少人数教室を利用していきたいと考えている。面積基準や人員基準は緩めずにやっていきたい。支援員については確保に努めていきたい。

令和3年度碧南市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について全員挙手により承認された。

イ 令和4年度の保育園・こども園・幼稚園・児童クラブの申し込み状況について事務局が資料に基づき説明

B委員：兄弟で同じ保育所に入れない、自宅から近い保育所に入れない等の状況について教えてほしい。

事務局：10月に申し込みを開始し、就労基準や兄弟加点をして入所を決めているため、残念ながら実際に兄弟で別々になってしまうこともあるが、できるだけ保護者の希望に添えるように調整している。

B委員：児童クラブの支援員不足の原因とその対策についての考えを教えてほしい。

事務局：児童クラブは女性が多く働いていて、就労時間が午後から夕方であるため、女性の方にとっては家庭の時間と被ってしまうところが一つの要因か

と思うが、引き続き支援員の知り合い等で声をかけていきたい確保に努めたいと思う。

A委員：児童クラブの支援単位が概ね40人の基準のところ50人となっているところもあるが、日々の利用者は変動があると思うので、毎日の様子を見ながらやっていただいていると感じる。支援の単位の規模については、引き続き適正に行っていただきたい。

事務局：日々の利用状況をみながら適正に行っていく。

#### ウ その他

C委員：子育て・保育に関してしっかり取り組んでいると感じた。質問でもあったが、兄弟が別々の保育所になってしまうことについては、厚労省も「隠れ待機児童」として調査もしている。大都市圏で起きている状況と報告をあるが、碧南市でも少し見受けられるんだと感じた。保護者のニーズに寄り添っていただくことで、少しでも解消できるのかと思うのでそういった体制を続けていただきたい。児童クラブの支援員の不足については、名古屋市が部活動の指導に大学生の活用を始めているように、児童クラブについても保育を学ぶ学生を活用することが、支援員不足の一つの方策として有効かと思う。また、コロナ禍で子育て支援事業が今までのようにできない状況があるので、子育てに困っている人を見落とさないかと心配な面もある。予約制も大事なことであるが、緊急的な駆け込み的受け入れの体制があってもいいかと思う。コロナ禍の保育については、コロナ対策と子育て支援のニーズ・必要性の天秤を考えて行っていただきたい。看護師会が保育所・幼稚園との連携のガイドラインを出しているので参考にできる部分があると思う。過度に制限をし過ぎず、子どもが育っていくのに必要な経験を保証していくことを考えながら保育・子育て支援をしていっていただきたい。